社会政策から滋養分を

佐賀大学講師　松隅芳男

潮流展望（8）

最低賃金制度をかくとくするために労働階級が組んできた闘いはまだ実を結ぶに至つていないことは御承知の通りです。何故でしようか。さまざまの条件や原因のうちいちばん根本的なものであつて尚かつ私たち労働階級の努力次第で克服できる原因は、やはり、資本主義国家権力をして最賃制を実行させるに足るだけの底力を日本の労働運動がまだそなえていない点にある、というべきでしよう。

労働階級の労働生活の苦しさを大なり小なり緩和するものとしては、労組の闘争に対する個々の資本の譲歩の他に、資本制国家の行う社会政策があります。労働時間の制限、災害補償、各種社会保険社会保障制度とともに、最賃制もまたそういう社会政策の一つなのです。

そこで私はいま、最賃制そのものについてではなしに凡そ社会政策なるものについて（話は抽象的になりますが）少しく考えてみたいと思います。と申しますのは、そういう吟味が、当面の最賃闘争を誤りのないものにし力あるものにするための一助にもなろうと思われるからです。

(1) 御存じのように個々の資本が譲歩するのはいつまでも争議を続けるよりは譲歩した方が結局はソロバンに合うからなのですが、資本の利益を守る権力機関である国家が資本の利潤をへらすような社会政策を行うのも、結局はその方が資本のためになるからです。けれども個々の資本の譲歩と社会政策との間には一つの大きなちがいがあります。

個々の資本はそれぞれ自分をもうけでふとらすことを仕事としているのに対し、国家は資本のそういうもうけ仕事のできるような社会のしくみ＝資本主義社会秩序の維持・安定を最も重要な任務にしています。資本主義社会秩序を倒す力をもちうるのは勿論労働階級ですから、国家は、労働者の階級闘争が資本主義社会秩序をゆりうごかすものにならぬよう常に手を打ちます。その手のうちでは資本に対して経済的負担をかけぬようなもの謂つまり弾圧政策が先ずは考えられますが、しかし専のみではとうていおさえ切れぬほどにまで労働階級の抗争力は強くなつてきます。そうなると専と並んで譲＝譲歩政策を国家はしぶしぶとり行います。飴のなかには団結権を与えるというような政治的なものと、経済的譲歩つまり社会政策と、この二つがあります。

ここまで考えてきますと、個々の資本の譲歩が結局は資本の側の経済的ソロバン勘定で行われるのに対して、社会政策の場合は、資本家階級にとつて経済的には少々マイナスでもそれでも資本制国家の側で資本制社会秩序の安全を守るという政治的社会的効果が期待できればそれでよい、というちがいのあることは、あきらかです。

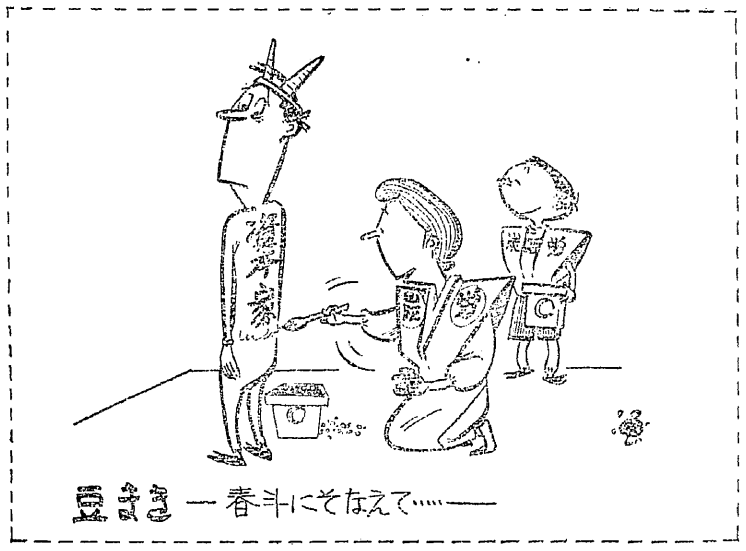
(2) いま申し上げたことからもわかるように、国家に社会政策の実行を強いるに足る労働階級の闘争力は、国家をして、いまの労働運動をこのままに放置したり弾圧したりするのみでは資本制社会秩序の不安を防げないぞと思わせるような、それほどの闘争力でなければききめがないわけです。個々の資本を譲歩させるに足る力よりは数段も根強さと巾広さをもつ力でなければならぬわけです。

(3) 注意すべきことの一つは、国家は労働者の信頼感を闘う労働運動組織の方に向わせないで資本制国家・資本制社会秩序の方に向わせもつて労働階級の抗争力を弱めようとの意図で社会政策を行うにしても、あるいは、社会政策は現実に右の意図を一時的、部分的に果すにしても、だからといつて社会政策はこれを革命的労働階級は求むべからずなどという誤つた極左論に陥つてはならぬ、ということです。なぜかと申しますと、個々の資本や国家権力やに対する労働条件悪化防止の闘いを通じてでなくては革命的闘争力なんてものはなかなかに育たぬものですし、それに又個々の資本の譲歩や社会政策のかくとくによつて少しでも暮しに経済的、時間的、心理的余裕をもつようにならぬことには、たとえばルンペンプロレタリアの状態の下では地道な底固い闘争力（学習活動だつて同じこと）も出てこないからなのです。社会政策は現実には、資本制国家によつて意図された目的にある程度は応ずるという効果とともに、逆に労働階級の戦力を革命的なものに強めてゆく助けになるという皮肉な効果をもつわけです。

どこの国の労働運動史でも大てい右にあげたような極左論の誤りをかつておかした経験をもつているようですし、また今日の日本の進歩陣営の中にさえもそういう極左論が全くなくなつてしまつたとはいえないようです。敢て一言した所以です。

(4) 勿論、社会政策のなかに国家が封込めた革命的闘争力去勢の意図は、これを十分警戒しなければなりますまい。従つて労働階級としては社会政策のいわば毒性を逆に去勢し進歩的側面をなるべく効果的に深呼吸しなければならぬわけですが、そのためには、かくとくしようとする社会政策の内容それじたいは具体的にどういうものであつてこそ最少く良薬多きかという点についても十分に吟味しなければならないことになります。ただ漠然と最賃制を要求するのでは、闘争が相当に底力あるものになつたとしても、国家権力はその智能を動員してとけ多き最賃制をあたかも美々しいバラの花であるかの如くに装わせ宣伝して付与しようとするでしよう。要求する社会政策のプログラムをはつきりと、そして大切なことには労働者のひとりひとりが、つかんでいてこそ社会政策のための闘いは力をもち得ましようし、また社会政策から労働運動力増強のための滋養分を吸いとれる、というものだろうと思います。

社会政策に関する数多くの問題点のうちのほんの若干を、著しく抽象的に申し上げたわけですが、組合員の皆様の検討の対象にでもなれば幸です。



金で買えぬ職場の確信

こんどは十二波だ

鐵鋼の職場活動家たちは語る

私たちはこれから春季闘争を闘おうとしているが「鉄鋼はあれだけ闘つてもゼロだつたじやないか」ということをよくきき、ややともすると闘う前から敗北感に落ちようとするが、果して鉄鋼の仲間たちは闘い終つていまこれをどう受取つているのか。最近の職場はどうなつているかをよく知ることが、独走覚悟の私たち疲労の闘いの道標となることを信じ、平島編集部長が日本機関紙協会の総会に出席した際、職場の活動家達と座談会を開いた機関紙通信者の通信員の報告を掲載する。この座談会に参加したのは、日本鋼管川崎製鉄所（川鉄）の本工三名、臨時工二名、鶴見製鉄所（鶴鉄）の本工三名、臨時工二名の計八名。

司会　まず闘争を終つての職場の感じから……。

A　闘争後社宅に行つたんだけど、つるし上げられるんじやないかとビクビクしてたら「よく来てくれた」といつてくれた。うれしかつたね。「来るのがつらかつたでしよう」と慰めてくれるんだ、闘争資金をもつと積んだらよかつたんじやないかとか、いかれた幹部をどうにかしろとか、負けないような組合を作るにはどうしたらよいか教えてくれと前向きの質問が出て来る。

B　うちじやあ、いま職場懇談会で自己批判中だけど「負けた」という感じはない。

C　とにかく十一波までよくやつた。こんどやる時は十二波だといつている。黒幕的なことはわからないが幹部もよくやつてくれた。

D　負けたことは認めるが骨ぬきにされたんじやないというのが大体の意見じやないかな。

E　なぜ負けたかという点では「時期が悪かつた。秋より春の方がいい」という意見が多い。秋じやあ暮の年越しがあるが、春なら心配ないつていうんだ。

F　春闘ではまとまつてゆけるから一つぐらい欠けても自信が強いつていう意見もあるね。

C　それはうちの方でも出ている。全く九波ぐらいになつたら何んでもいいから必死になつてしがみつきたいつていう気になつた。ところが外部からは何の応援もない。孤立闘争だつた。激電も来ないんだ。

A　よそにあやうなかつたんだから来る筈がないよ。（笑）

臨時工も一しよに「スト決行」

司会　臨時工の人たちはどうですか。

G　本工が勝てば俺たちもよくなるつていう空気が一般に流れている。だから共闘を組んだ。

A　三波、四波のとき、川鉄の臨時工組合が本工に同調してストに入るかどうか決めた大会の討議は切実だつたね。

G　そう。同じ仕事をやつてるから、本工がストに入れば臨時工も仕事ができない。どうせ家で寝ているなら保障給六〇％もらつて寝てた方がいいじやないかという意見が出た。それを書記長が「いま闘鉄がたたかれて低姿勢になつている。敵がムチを振り上げてたたこうとしているときに、俺たちは黙つて背中を向けていていいのだろうか」と説得した。そしたら「よく判つた。ちよつと待つてくれ」ということになり翌日の大会で〃スト突入〃となつた。

H　本工たちがつて臨時工は若い者より年寄りの方が熱心だ。一生活が苦しい。どうしても本工になりたい。だから共闘しようじやないか」というんだ。

〃よく闘つた〃と励ます職場

司会　闘争の前と後とくらべて職場に何か変化はありませんか。

B　ゼロで負けたら相当追打ちが来るんじやないかと思つたが、そうでもないな。

A　川鉄じやあ砂川事件で追打が来てるぜ。（注＝一月十九日、会社側は砂川事件の逮捕者三名を解雇、六名を停職にした）まるで手配写真みたいなのを入れて「熱鉄」（社内報）で「いちじるしく会社の名誉を傷けた」と宣伝している。ところが製鉄職場の樋口君（注＝出勤停止七日）は組合の役員選挙をやつたら七対四で勝つちやつた。やつぱり組合は支持されてるんだ。

カネで買えない「自覚」

D　職場に帰つたら「ざまあ見ろ。やつぱり負けたじやないか」といわれるかと思つたら、スト権確立で反対投票した人が「ともかくよく闘つたなあ」といつてくれたのはうれしかつた。組合に対する見方が変つて来たんじやないか

F　「余力を残して」とか「組織を守つて」とかうまいことをいうけど、やつぱり労働者は力を出し切つたとき「ああ、こんどはよくやつた」と満足する。

H　こんどの闘争を通して敵の正体をみんながつかんだ。それから闘争は一人ひとりが闘わなければダメだということ、それを鉄鋼労働者が知つたんじやないか。

E　一百三社はゼロだつたけど同じ大手でも住友、神鋼は五百円中小は千円とつている。不況だとかなんとかいうけど、統一して闘えば必ずとれるんだと確信をみんながもつた。

C　職制は「統一しても負けたじやないか」というけど、統一しなかつたら単独で十一波までとつても闘えない。

司会　そうすると闘いは互角だつたんですか。

A　いや、こういう自覚の高まりはカネにはかえられない。

闘いは職場から

司会　ではあなたがたの経験から、これから春闘をやる仲間たちにいいたいことを。

B　はじめから敵は日経連、政府と大きくつながつているだつていうこと、企業ごとに闘かおうと思つてもダメだということをハラにすえてかかつてもらいたい。

A　それから日常闘争の重要性ということ、富士宮闘じやあ〃どんと来い正月返上〃という方針を出したけどここではストの度に二百名からのオルグを出して社宅を廻つた。そうして「こんどの闘争は単なる賃上げではない。生活を守る闘いだ」といつたら「そんなら家の屋根を直してくれ。これだつて自分でやれば大分金がかかる」と続々要求が出て来た。職場からも集約した。それで職場闘争だけで九〇何％でスト権を確立している。これが闘争をささえる力になつたんだ。

C　それから戦術は大衆が決めるんだつていうこと。闘いがのびて来ると必ず集中攻撃がかかつてくる。この点は十分警戒してもらいたい。

G　前進しなかつたら追打ちが来るんだ。

〃骨ぬきにされたんじやない〃

司会　まず闘争を終つての職場の感じから……。

A　闘争後社宅に行つたんだけど、つるし上げられるんじやないかとビクビクしてたら「よく来てくれた」といつてくれた。うれしかつたね。「来るのがつらかつたでしよう」と慰めてくれるんだ、闘争資金をもつと積んだらよかつたんじやないかとか、いかれた幹部をどうにかしろとか、負けないような組合を作るにはどうしたらよいか教えてくれと前向きの質問が出て来る。

B　うちじやあ、いま職場懇談会で自己批判中だけど「負けた」という感じはない。

C　とにかく十一波までよくやつた。こんどやる時は十二波だといつている。黒幕的なことはわからないが幹部もよくやつてくれた

D　負けたことは認めるが骨ぬきにされたんじやないというのが大体の意見じやないかな。

E　なぜ負けたかという点では「時期が悪かつた。秋より春の方がいい」という意見が多い。秋じやあ暮の年越しがあるが、春なら心配ないつていうんだ。

F　春闘ではまとまつてゆけるから一つぐらい欠けても自信が強いつていう意見もあるね。

C　それはうちの方でも出ている。全く九波ぐらいになつたら何んでもいいから必死になつてしがみつきたいつていう気になつた。ところが外部からは何の応援もない。孤立闘争だつた。激電も来ない。

『生活つづり方』

リコールに思う

本所七夕　松尾スエノ

私達の社宅の近所に非常に私達主婦会に協力して物資購入等して下さる魚屋さんがあります。

先日の寒い日魚を買いに行きましたところ、御主人が知事リコールはどうなりましたかと心配して云つて下さつた。私はどんなにかうれしかつた。「はい法定数までにはいつてますよ」と云つたのをじつと聞いていた町の奥さんが「だれがしたつちや同じことですばい。私どんが、じたばたしたつちや同じとつですばい」と云われた。

私は、昔の知事とは違つて公選だから、私達のために害を及ぼす人は大手術して害毒をのぞき、明るい社会を作らねばと云つて政治と台所の直結と、一人一人が団結すれば明るい希望のある社会ができることを等をといた。一人でもわかつてもらいたいとの信念で、買物は忘れてくいさがつたが、その人は「おなじとつですばい」といつて帰られた。私は、さびしい気持になつて、いわしを入れたかごを持つて帰りつつ思いだしたことは、先日リコール署名最終日の寒い日でした。三年生になる男の子を連れて買物にでかけました。東新町の角に市議の中川さんが街頭署名所でマイクで市民によびかけています。いつも主婦会のお世話でよく私の家においでになりますので、子供が「おつちやん、何じよんなはるね」と聞きますので知事リコールの意味を、わかる程度に話しました。先日から旭町の署名に廻つたことを子供は悪いだしたのか、「ああこのあいだ、お母さんが行きよつたつね」といつてすばい。お母さん達が悪かつたい。そげんか人ばあぐるけんたいい」といつた。私は、日頃悪いばかりで学校では先生は何を教えているのかと、たまに考えていたことが恥かしくなり、ほほずりしたいような気と同時に、大人に対してこの子はわからない人だと思つているだろう、とひどく胸をつかれていて何も分らなかつた頃があつた。政治の本でも友達が読んでいると共産党といつていた。それが資本家はどういうものか、どうすればよくなるかと一つ一つわかりつつある。あの人も何年かするとまたわかつていく。一人の耳から二人の耳、四人の耳と根気よく勇気づき、玄関をあける時には何時もの私にかえつていた。

リコールも法定数に達し、小宮県議より知事退職の勧告が行われたが、反省する色もない。後には資本家の物の力が動いているだろう。

私達は力強く結集して、これをやりとげるよう頑張ると同時に、前に述べたような「どげんしたつちやおなじとつたい」という人が私達の組織の中にもし一人でもあつたら、わかつた人から話してもらいたいと熱望します。

狭い鉱業学校入学

昭和三十三年度鉱業学校および別科生の応募を一月二十八日で締切つた結果次の通り申込みがあつた

鉱業学校　定員一五〇名

申込者	縁子関係	五八二名
〃	叔父、甥	二二八名
〃	無縁故	一三五名
	計	九四五名

別科生　定員　二〇名

申込者	縁子関係	三六名
	兄姉弟	二三名
	その他	六一名
	計	二二〇名